

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4191300146		
法人名	社会福祉法人千悠会		
事業所名	グループホームこころ小城		
所在地	佐賀県小城市小城町晴気2370-4		
自己評価作成日	令和 6年 1月 20日	評価結果市町村受理日	令和6年7月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	令和 6年 4 月 26 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

佐賀を代表する天山の麓にあり、大自然に囲まれて「家庭的な雰囲気」のなかで、経験豊かな職員が真心を持って介護させて頂き、ご利用者様お一人お一人に「安心・笑顔・穏やかな時間」を送って頂く。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山あいの自然豊かな環境の中にあるホームである。常に入居者を中心におき、入居者が楽しみをもって生活できるよう日々努力されている。職員間の関係もよく、勤務年数が長い職員が多く、ホーム全体が落ち着いた雰囲気である。入居者が日々の生活の中で、持っている力を発揮できる役割が様々な場面で用意され、活き活きと生活されている様子がうかがえる。また、外出の機会もできるだけ持つよう努められており、買物、ドライブ、花見等々、入居者の希望に応じ対応されている。グループホーム本来の目的をきちんと捉え、ホームの理念に沿い、入居者の力を大切にしながら、入居者一人ひとりの思いを尊重した支援に取り組まれているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に目に付く事務所や玄関に提示し、ミーティング等でも理念に基づいた支援を確認しながら行っている。	入職時にケアの基本として理念について説明されている。玄関・事務所等、職員の目につくところに理念は掲示され、常に振り返る機会が設けられている。長年勤務する職員も多く、理念は全体に浸透し、日々理念の実現に向けたケアに努められている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の散歩や気候がよい場合は行事にてドライブを行っている。散歩の際に近所の方から野菜をもらったりし交流に繋がっている。	回覧版を入居者と一緒に回したり、ホーム周辺の散歩の折に挨拶をかわしたり、近隣より野菜の差し入れがある等、日頃から良好な関係づくりに努められている。コロナ禍は秋祭り等ホームイベントへの住民招待は控えられていたが、今後再開を目指し、さらなる交流を検討されている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々からの相談や問い合わせに対応している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た話を職員へ共有し、環境改善や行事の内容に取り組んでいる。	地域包括支援センター、区長、家族、近隣のグループホームからの参加があり、2ヶ月1回開催されている。毎回全家族へも案内を出し参加を募られている。欠席者へは議事録を送るとともに、意見の聴取にも努められている。出された意見や提案はサービスの中で活かすよう努められている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの方も運営推進会議に参加して頂き、協力関係を築いている。	運営推進会議への地域包括支援センターからの参加、市へのホームの空き状況の報告、必要時はホームから相談する等、日頃から協力関係の構築に努められている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束適正化検討委員会を設置し年に4回検討を行っている。その結果について職員に周知徹底を図っている。	現在、玄関の施錠を含め拘束は行われていない。身体拘束適正化委員会を設置し、定期的な会議・聞き取りが行われると共に、外部・内部での研修の機会が設けられ、身体拘束とは何か、身体拘束がもたらす弊害等を正しく理解し、身体拘束をしないケアの実践に努められている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2回虐待についての勉強会を行い再確認し、常に意識しながら取り組んでいる。高齢者虐待防止研修の受講を申し込みしたが、定員割れの為受講できなかった。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等で学んだ事を職員間で共有している。必要性がある方に活用して頂けるよう関係者と連携を取り、支援するようしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書の該当箇所を示しながら口頭で十分な説明をし同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や面会時には気軽に話をしてもらえよう雰囲気づくりを行っている。相談や意見についてはミーティングにて検討している。	家族会、介護計画の更新時、面会時等を利用し、意見の聞き取りに努められている。出された意見・希望は、日々の生活の中で取り入れられるものはすぐに対応され、全体で話し合いが必要な場合は、検討を行い運営に活かすよう努められている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常業務の中で随時検討を行い反映している。	管理者も日々の業務に入られており、話をする機会も多く、会議の場を含め職員の意見等はできるだけ聞くよう努められている。また施設長との個別面談の機会もある。出された意見は法人にあげ、ホームの運営に活かせるものは反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当を設け、各自が向上心を持って働けるようにしている。又、処遇改善費を有効活用している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修で学んだ事を職員間で共有している。外部研修へ行った際は外部研修に行った職員が研修資料に基づいて施設内研修の司会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	訪問診療や薬剤師訪問時に相談や質問をして回答を得る事で職員間で周知しサービスの質を向上させている。他施設への見学を積極的に行いサービスの質の向上に努めている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の想いを傾聴するだけではなく、表情や仕草からも汲み取り寄り添う事で安心して頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等の思いを受容しながら信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今必要なサービスを見極め、自施設での対応が困難な場合には、本人、家族の理解を得た上で他のサービスを含めた対応が出来るよう務めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「出来る力」を理解した上で、その力に応じた作業を談話しながら一緒に行っている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡を定期的に行い状況報告し、必要があれば相談や確認をその都度行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会希望があった際は、特に制限なく居室にて面会をして頂いている。	面会時間を制限することなく、家族との面会 は対面で対応されている。孫との手紙のやり取りの支援、自宅周辺へのドライブ、馴染みの場所への花見等、これまでの関係が途切れないよう支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人の意思や相性を日頃から観察し把握し、ミーティングやその日の出勤者で話し合いリビング席の配置移動を行っている。職員が間には入り良好な関係が築けるよう橋渡しを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後家族より連絡があった際はその都度相談や支援等を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員間で情報の共有を行い本人や家族の希望、意向に添えるよう努めている。	思いを表出できる入居者が多く、日常生活の中、介護計画の作成時等、機会あるごとに入居者本人の思いを聞き取るよう努められている。困難な場合は、元気だった時の本人の意向や家族からの聞き取り等、本人本位に検討し、意向に添うよう支援されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から以前の暮らしを聞いたり、サービス利用については当時の担当者から情報提供をして頂き、十分なアセスメントを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中で、心身の状態を観察している。個々の有する力に視点を置き、職員間で常に共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、主治医から聞き取りし意向を基に十分に話し合い、計画を作成しミーティングにて現状確認を行っている。	家族が担当者会議に出席できない場合は、事前に説明を行い、計画書を交付されている。その際に、生活状況や計画の達成状況等が報告され、希望の聞き取りも行われている。介護計画は適切なプロセスを経て、定期及び随時の計画書の更新がなされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録をパソコンに入力し、状態に応じて職員間での話し合いを行い計画書の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の意向や現状を家族と相談し、適切な支援が行えるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	機会があれば、地域の方との交流をしふれあいを積極的に行う事で楽しく生活して頂けるよう支援していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を継続している。家族による受診が困難な場合は職員が付き添い受診を行い、家族へ伝えている。	入居時に聞き取りを行い、入居者・家族が希望するかかりつけ医の下で、適切な医療が受けられるよう支援されている。協力医療機関とは24時間連携できる体制がとられている。他科受診はホームでも対応し、医療情報は家族と共有されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師や訪問看護師に相談や状態報告を定期的に行っている。緊急時には連絡を行い早急に対応出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	できるだけ早期に退院できるように、こまめに病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における指針及び看取りに関する指針についての同意書を取っている。希望の際にはどのようなケアを望まれ、何ができるか確認し職員間で共有している。かかりつけ医や訪問看護と連携し強化を図っている。	入居時にホームでできる事できないことを説明し、同意をとられている。状態変化時は協力医療機関と連携し、主治医が家族の意向を確認し、ホームと情報を共有しながら、希望されれば看取りまで対応できる体制をとられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル等を備え、定期的に勉強会を行う事で再確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練、避難訓練を実施している。緊急時の連絡票に職員だけでなく地域の方も登録している。	夜勤者も参加しての避難訓練、消防訓練が年2回実施されている。電気機器の清掃を含め定期的な点検も行われ、備蓄も用意されている。緊急時の連絡網に区長の登録がある等、地域との協力体制づくりも進められているが、地元消防団との連携には至っていない。	火災を含め、想定外の災害も日本各地で起きている中、地域住民、地元消防団との連携は不可欠であり、日頃から情報共有を行い、組織的な連携を図っていくことが望まれる。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の取り扱いは職員と契約書を取り交わしている。人格を尊重した言葉かけを行い、プライバシーに配慮した環境を整えている。	羞恥心やプライバシーに配慮した言葉かけに努められている。気になる対応があれば、その都度お互いに注意し合い、入居者一人ひとりを尊重したケアを目指されている。書類・記録物は事務所にて保管・管理され、個人情報の保護に努められている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを多くとり、その時の思いを汲み取れるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースや体調に合わせて、確認を取りながら過ごしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの服を本人自ら選んで着て頂き、ご自身で出来ない場合は言葉かけし選んで頂いている。白髪染めを希望される方は職員が行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に話をしながら準備や食事の片付けを行っている。時折談話の中で食べたい物を伺っている。	買物、調理、つぎ分け、テーブル拭き等其々の場面で、入居者の能力に応じた役割が用意されている。誕生会、雛祭り、クリスマス等の行事食は入居者の楽しみの一つであり、時にはテイクアウトを利用し、日常とは異なる楽しみも提供されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の状態に応じて量や形態に配慮して提供している。チェック表に記録し必要時は医師への報告し指示を仰ぎ対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員見守りや一部介助、全介助のもと口腔ケアを行っている。希望者は歯科往診にて口腔内清掃、治療を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンや訴え時にトイレ誘導、オムツ交換を行っている。訴えの無い方でも時間や本人の仕草、表情で察し支援を行っている。	排泄パターンを把握し、時間や本人の状態によりトイレへの誘導が行われている。誘導の際の言葉かけの仕方等、職員間でも注意しあい、入居者のプライバシー保護に配慮した対応にも努められている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く取り入れた食事や水分補給を心掛けている。個別でココアを水分に取り入れたりしている。毎日レクリエーションやボール体操で運動を行い、予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯は決まっているが希望や状況に応じて、設定日以外でも対応している。入浴剤をいれたりあらいで頂く工夫をしている。	入浴は毎日実施され、拒否があっても、曜日や順番を変える等し、週3回は入浴できるよう支援されている。一人ひとりのペースに合わせ、職員との会話も楽しみながら、ゆっくり入浴を楽しむことができるよう工夫されている。また、しょうぶ湯等、季節ごとの入浴の楽しみも用意されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせて自由に休憩をとって頂いている。休まれている時も、時折様子観察を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情はその都度個人ファイルに綴じ、いつでも確認できるようにしている。薬の効能や副作用も理解し状態観察を行っている。変化あれば主治医に報告し指示を仰ぎ対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	クロスワードや字の練習、塗り絵、新聞読み等時間がある際は職員と一緒に楽しんで頂くよう日々努めている。日常生活でのお手伝いも出来る方に合わせて手伝って頂き、気分転換取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族様が希望される際は外出・外泊をして頂いている。買い物のお手伝いで近所に職員と出かけて頂いている。	家族との外出や外食の支援、食材等の買い物への同行、公園や自宅周辺へのドライブ、ホーム周辺の散歩等、日常的にできるだけ戸外に出かける機会を設けるよう努められている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員、家族が管理しており本人の希望があれば買い物支援等行っている。買い物した際は本人に金額を伝え、使える事の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば、その都度対応をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングに花を活け季節感を取り入れ明るい雰囲気づくりをしている。	共有スペースには、習字等の入居者の作品や写真、季節の花々が飾られ、明るく、居心地よく過ごせるよう配慮されている。室温、光、音等にも気を配られ、気になるような匂いもない。窓からはホーム周辺の自然豊かな景色が眺められ、思い思いの場所でくつろげるよう環境も整えられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	配置換えを行ったり、ソファを増やす事で共用空間での居場所を選んで使えるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は馴染みの家具や品を持参して頂き、家族と相談してレイアウトしている。	テレビ、ソファ等入居者の馴染みの家具が持ち込まれたり、家族の写真が飾られたり、入居者一人ひとりが安心して居心地よく過ごせる環境づくりに努められている。入居者の動線を考慮し、家具やベッドの配置も家族と共に検討されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状態を把握した上で支援を行っている。出来る事を奪ってしまわないよう心掛けている。		